

銘柄分析レポート：岐路に立つ学習塾ビジネス

1 はじめに

下図をご覧ください。2001年から2004年にかけて、当時は斬新だった個別指導のビジネスモデルにより、個人経営の学習塾を草刈り場として大躍進を遂げ、10倍株となった明光ネットワークジャパン（4668）のロングチャートです。

かつて一世を風靡した同社も、参入障壁の低さに起因する競争激化、少子化に伴う生徒数の減少、スマイルゼミを筆頭とする通信教育の台頭などにより、近年では苦戦を強いられています。

また業界全体としても伸び悩んでいる印象があり、学習塾自体が岐路に立たされているという見方もできそうです。

優秀な経営者であれば、そんなことは重々に承知していることでしょう。上場企業として収益を伸ばし続けるために、稼いだキャッシュの再投資先を確保すべく、何らかの手段を講じている会社も少なくありません。

長期投資家としては、既存の学習塾事業が堅調なだけでなく、今後の成長を期待できる会社に注目したいです。

★明光ネットワークジャパン 月足チャート

